

市街地循環バス「ら・くるっと」  
ルート選定による長所・短所

資料2

今回の論点

停留所番号22番（宮地町上）～25番（運動公園口）の区間について、外循環線または内循環線のどちらに接続させるのか。

ルート	運行時間	長所（メリット）	短所（デメリット）
[プラン①] ・外循環 ・内循環  ※内循環線に接続した場合	・外循環：80分 ・内循環：70分	① 外循環線の運行時間が、現行の運行時間とあまり変わらないことから、外循環線7便、内循環線7便を確保できる。	① 内循環線に乗車した場合、乗降区間によっては乗車時間が長くなる。（例えば、市役所－新見駅は外循環線で約12分で行けるのが、内循環線だと約18分かかる）
			② 現行路線での全体利用者の約8割が、内循環線の範囲内で利用されているが、さらにその約7割の利用者は運動公園口まで乗車しなければならない調査結果となっている。
[プラン②] ・大外循環 ・内循環  ※外循環線に接続した場合	・大外循環：90分 ・内循環：60分	① プラン①の内循環線よりもさらに時間が短縮されることにより、新見駅を中心とした市内中心部の回遊性を向上させることができる。（現行路線での全体利用者の約8割が該当）	① 大外循環線に乗車した場合、乗降区間によっては乗車時間が長くなる。（例えば、市役所－新見駅は内循環線で約12分で行けるのが、大外循環線だと約18分かかる）
			② 大外循環線における運行時間が約90分かかり、便間の休憩時間が確保できないため、外循環線6便、内循環線7便となり、上市－宗金、サンパーク－石蟹の区間の利用者の利便性が低下する。